

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	下高井戸ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図る。生活の中で英語と日本語がどのように馴染んでいくのかを育てていく。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在している。子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が広がった。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の身近な動物や乗り物、オノマトペをテーマにした。散歩中に道路を走っている乗り物を見る機会が多いこと、図鑑を通して動物に興味を示していたことで、より興味を持ち生活に馴染むようになった。また、言葉への理解も深まってきた年齢でもあるため、普段子どもたちもよく使っているオノマトペに注目をした。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】英語講師が発する言葉と保育者が発する言葉の区別をしているか。実際に聞いてみた時はどのように聞こえ、英語と日本語のどちらに近いのか。

【流れ】英語講師が絵本やカードを用いて子どもたちに見せる。日本語版の絵本やカード、歌がある場合は保育者が見せる。英語、日本語の区別がつくよう何度か繰り返し行ってみたり、普段の生活の中で取り入れていく。言葉を共有しながら興味を持ち、覚えられるようにする。子どもたちに合わせて無理のないような内容で進められるようすり合わせをする。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

*読み聞かせ、歌、カード遊び、英語で工作：4歳児クラス

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行う。次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

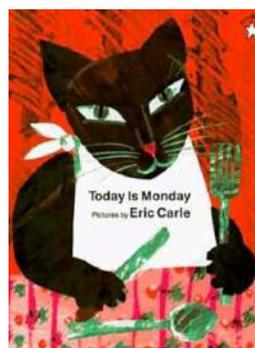
【素材】

* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード

* 英語の絵本："Today is Monday"

* 図鑑：どんななきごえ？ どうぶつずかん



4-①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

登場人物の名前にも注目しながら歌う。聞いたことのない動物や鳴き声もあったため、初めは疑問を抱いていた。「ぶたってブーじゃないの?」「ろばって鳴くの?」という声が聞かれた。

4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

少しテンポが速く歌うことに苦戦をしていたが、鳴き声の所は覚えて楽しんで歌う。日本語での鳴き方と違う動物が多いことに気が付いていた。「chick」「turkeys」分からなかった為、絵を見て納得し覚えていた。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】初めは英語での鳴き声に納得できなかった子も、繰り返し聞くうちに馴染んできた様子。人によって聞こえ方が違うこと、もしかすると国によっても違うのではないかという発見をしていた。

【次回への問い】保育の中でカードを見せたときに、英語と日本語どちらのオノマトペで表現するのか。

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

カードを見ると動物の名前を英語で答える。鳴き声を聞かれると豚や羊は英語の鳴き声をし、他の動物はほとんど日本語での鳴き声が聞かれた。分からないものは教えてもらうと興味を持ち、真似て言っていた。

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>②自由遊び中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う。（子どもたちがどのように見立て遊びをするのか、また英語で使っているカードなので、レッスンではなくても英語で言うのか。また英語講師同席の場合と、そうでない場合の遊び方にも違いが出てくるのかなど）英語と日本語のどうぶつなきごえを比較した後、本当の動物のなきごえを図鑑を通して皆で聴く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めは英語で教わった鳴き声が印象に残っていたようでなかなか引き出すことが出来なかった。「日本語では?」「モー」等普段言っている鳴き声を促した。友だちと羊と山羊の鳴き声を聞き比べてどのように聞こえるか話し合っていた。動物は見たことがあるが、実際に鳴き声を聞いたことがあるという子が少なかった。想像で話すことも多かった。

4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

始めて聞く声が多く、面白いと言って聞いていた。表現が難しい鳴き声は友だちと「こうかな」「違うんじゃない、こうやって聞こえるよ」と話をしていた。動物図鑑を用いて実際に鳴き声を聞くと、聞こえた通りのものもあれば、友だちと意見が分かれるものもあった。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】歌で聞いた鳴き声もあることに気が付き、英語で発することが増えていた。友だちとも聞こえ方の違いで楽しみながら話合う姿が見られた。図鑑を読んだ際、友だち同士で英語と日本語で鳴き声を言い合うことがあった。

【次回への問い】動物以外で音の出る例えば乗り物の擬音語について子どもたちはどのように発するのだろうか？

4-③.探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

よく見かけたり、乗ったことのある乗り物が多く馴染みがあり反応がよかった。乗り物カードを英語のレッスンで見たことがあったため、英語で言うことが多かった。どんな音が出るか問うと、日本語で答えてくれた。英語ではどうか問うと、すぐに考える姿が見られた。

4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

乗り物の単語を覚えているため、カードを見せられるとすぐに「bus」「train」等英語で話す。音は殆ど日本語で表現していたが、英語で教えてもらおうと覚えようと積極的に言う。日本語が定着していることで、少し違和感を感じる子もいた。繰り返す中で、英語と日本語を区別していることを覚えていた。音が違うことで、日本の乗り物と少し違うのではと発言する子もいた。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】動物だけでなく、乗り物の音の聞こえ方も違うことに疑問を抱く。言葉が違うように表現する方法がいくつもあることに気が付いていた。英語講師と行う時と保育者で行う時で、言葉を区別して答える姿が見られた。よく見る乗り物以外にも、作業車もあるためそれぞれが想像をしながらどのような音で表現するのか興味を持つことが出来ていた。

【次回への問い】他のオノマトペにも興味を持ち、探してみようとするのか。

4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

カードで遊ぶ前に、「どきどき」「むかむか」等の例を使い、子どもたちからどのような言葉が出るか聞いてみた。「しくしく」「きらきら」「むきむき」等多くの意見が聞かれた。他に何があるかをカードで確認することにした。普段何気なく使っていることばがオノマトペカードに出てきたことで、改めて様々な表現があるということを知ることが出来た。しかし、オノマトペは何気なく使っているため、言葉の意味を文章にすると少し難しく感じ、どのオノマトペなのか分からなくなってしまう姿が見られた。英語でのオノマトペは少なく、日本はとても多いということを知り驚いていた。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 オノマトペという表現がたくさんあることで、自分の気持ちや様子を伝えられるということを知ることが出来た。想像していたより、顔や身振り手振りでの表現が上手だったのでみんなで分かち合うことが出来た。

【次回への問い】 オノマトペを使っの文章作りがまだ難しいため、もう少し繰り返しカードを使って理解を深められるようにする。そして簡単な例を作ってみる。オノマトペの表現で食べ物に注目して昨年取り組んだ同じ絵本を使ってオノマトペの表現を広げてみてはどうか？

4-⑤. 探究活動の実践（英語で工作）

<活動の内容>①The Very Hungry Caterpillar、と Today Is Mondayの英語の読み聞かせを行い、その後自分の「1週間なにを食べる表」を制作する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

何度も読んだことのある絵本だったため、単語を覚えて積極的に発言する。The Very Hungry Caterpillarの絵本では果物の数を英語で数えていた。絵本を通して食べ物の単語に興味を持ち、苦戦していた単語も覚えて楽しんでた。クラフトタイムでは英語での説明に理解できない子もいたため、1週間のメニューを考えることを日本語で伝えた。絵本の内容と一致させながら、自分だったら・・・と楽しんで考えていた。保育者とのやりとりでは「ご飯」「いちご」等日本語で会話することが多かった。英語で話すと切り替えて言うことが出来た。グループ内でも英語で話すことがあり、楽しんで行っていた。



5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 絵本とクラフトタイムの内容が一緒だったことで、理解しながらクラフトタイムに参加できた。

【次回への問い】 "Today's Monday"をもとにクラフトタイムを行ったことで、何をするかを理解しながら進めることが出来た。自分の好きな食べ物を並べ、友だちと「甘いものが好きなの?」「ポテト美味しいよね。ここに入れようかな。」等と話をしながら楽しんでた。最後の発表も歌に合わせて自分のメニューを紹介できた。食べ物を英語で表現することも身に付いていたので、単語が分からないと一生懸命思い出したりヒントをもらったりしながら歌っていた。自分の一週間だけでなく、家族や友だちのものを考えることも楽しめるのではと感じた。